

令和7年（2025年）7月31日

腸管出血性大腸菌（O（オー）145）感染症の集団発生について

県内において、腸管出血性大腸菌感染症（3類感染症）の集団発生事例が確認されました。

腸管出血性大腸菌感染症は、夏場に多く発生します。感染を予防するため、以下のことに注意しましょう。

《 感染防止のための注意点 》

- ① トイレの後や調理前に必ず手洗いをする。
- ② 生で食べる野菜などと、加熱する肉などを一緒に調理しない。まな板や包丁などを別々にする。
- ③ 加熱調理を十分に行う。（中心温度 75℃ 1 分以上）
- ④ 調理器具を清潔に保つ。
- ⑤ 焼肉等をする時は、肉を焼く箸と食べる箸を別々にする。
- ⑥ 井戸水などのなま水を飲む場合は、必ず沸騰させる。

<概要>

（1）発生施設：菊池保健所管内の認定こども園

（2）陽性者数（7月31日時点）：合計13人

1歳児クラス	2歳児クラス	計
7（5）人	6（3）人	13（8）人

※（ ）は、うち無症状病原体保有者（病原体を保有しているが、症状がない人）

（3）主な症状：腹痛、嘔吐、下痢、血便

（4）感染経路：調査中

（5）経過

7月24日（木） 熊本市内の医療機関から熊本市保健所に、菊池保健所管内在住の2歳男児について、腸管出血性大腸菌（O145）感染症患者として届出。

菊池保健所が、関係者の健康調査を実施。

7月30日（水） 初発患者とトイレやプールを共有した可能性のある園児10人の感染を確認。

7月31日（木） 園児2人の感染を確認。

健康調査は、引き続き実施中。

健康危機管理課 感染症対策班

担当：松本、徳永

電話：096-333-2240（直通）（内線：33154）

（裏面あり）

(6) 今後の対応

- ・感染者への疫学調査
- ・施設、感染者保護者等に感染予防対策の指導

《参 考》

○県内における腸管出血性大腸菌による感染者数累計（本事例を除く）

	R2	R3	R4	R5	R6	R7※
患者	25	20	22	21	29	7
無症状病原体保有者	18	12	23	12	15	2
合計	43	32	45	33	44	9

※第30週（7/21～7/28）時点

○腸管出血性大腸菌について

ベロ毒素という毒素を作る病原性大腸菌の一種で、O157を代表として、O26、O111、O103等多くの種類があります。症状には、個人差がありますが、下痢、腹痛、血便、発熱などがみられ、重症になると溶血性尿毒症症候群（HUS）を引き起こすことがあります。

例年夏季に多く見られますが、冬季にも発生します。家畜や感染者の糞便を通じて汚染された食品・食器・手指等を介して、口から感染します。

【お願い】

報道機関各位におかれましては、個人情報の保護の観点から、患者及び患者家族等について、本人等が特定されないことがないよう、各段の御配慮をお願いします。